

西別院だより

謹賀新年



天真爛満の子供たち (新光保育園々児)

賀 正

修正会 (元旦会) 1月1日午前6時30分よりおつとめ・法話・
ご流盃
月忌は (12月29日より1月5日まで) お休み
しますのでご了承下さい。

年頭ご挨拶

本願寺小樽別院

輪番 藤本龍珠

明けましておめでとーございませぬ。

平成二年の元旦を迎えめでたいお念仏を申し、年頭の祝詞といたします。本年もよろしくお願ひいたします。

島根県の善太郎という妙好人が「生々世々の初事」という珠玉の言葉を残しています。

元旦だけが新しいのではなく、生きるいのちの毎日毎日がやりなおしのきかない、私の生涯にとっての「初事」なのであります。

今年こそ、おまことを如来様に聞き、ご開山聖人に問う私でありたいものです。

インドの天親菩薩が浄土の莊嚴を説いて浄土の世界は一つには『彼の世界を觀するに三界の道に勝過せり』。二つには『究竟して虚空の如く、廣大にして辺際なし』。三つには『正道の大慈悲、出世の善根より生ず』と申されています。

浅原才市の歌に「仏法は虚空く

うきのなむあみだぶつ」とうたっています。お浄土の廣大無辺という量功徳をうたいあげ「これにををた(遇うた)がわしのしやわせ(幸せ)」「わしや天地のまんなかで、虚空仏と、ねんぶつをもおしております」と。たしかな大慈悲のまん中に、救わてある、よろこびをうたいあけているのであります。

「あ、この虚空 みなほとけ われもそのなか なもあみだぶつ」

世々生々の初事に、一日一日これほどたしかな、なみあみだぶつの虚空仏の撰取の手に、しっかりといだかれた大安心の世界に、たちかえり、たちかえり今年もご報謝をさせて頂きたいものであります。

念々称名 常さんげ
さんげがたらぬでよろこべぬ
よろこび心をあてにすな
あてになるのはお勅命
勅命きいたら疑うな
疑いはれたが 信心ぞ
信心一つでまいるのじや
まいるはあなたのお願ひ
―昔の子守歌―

小樽幼稚園の特別活動

温水プール遊び(スイミング)

平成元年五月より幼稚園隣接の「サンフィッシュ・スイミングクラブ」の協力で毎週一回(水・木)園児が温水プール遊びを行なってきました。

このスイミングは保育の一環で

一年乃至二年、三年間を通し、健康な身体づくりを目的としています。

プールに入れない理由のある子ども達もプールサイドのギャラリールームで見学しています。

○約六ヶ月のスイミングを行つた結果、水に対する恐怖感がなくなり、水に慣れ、水泳をきっかけに自分に自信が付き、何事にも積極的に取り組むようになり、友達同志の会話も増え、表情も明るくなつてきています。

○皮膚の鍛練で風邪引きが少なくなり、次第に体力がついてきたようです。

○教える訳でないのですが自然に泳げる子どもが増えています。この温水プール遊び(スイミング)のねらい。

- ・水に慣れ親しみ、心身の発育、発達を助長、促進する。
- ・水中での危険を防止する態度を身につける。
- ・水泳補助する母・先生の子供とのきずなを強くする。
- ・昔から「三ツ子の魂百まで」と言われるように、基本的な性格を形成するのは幼児期です。又、運動能力に関しては三六才までに多くの刺激、多くの経験を与えることが大切です。水泳に関しても、幼児期のうちに水に親しみ、浮くことをマスターしておくことが大切です。そればかりか、「水泳」による身体刺激は、身体の発育・発達を助長促進し、更には心身の健康の保持増進を図るうえに大きく役立つものです。

又、水泳は、陸上での運動と違って、水中で行われることから自他の生命の保全を図る他、次のような効果が期待されます。

(1) 水中で「からだ」を支えているのは主として水の浮力であり、手と足を自由に動かして進みます。水中での抵抗は、空気の抵抗に比べて大きいので筋肉を働かせるのに適度であり、全身運動としては、からだを調和的に発育・発達させる運動として高く評価されています。

(2) 水中を進む場合には、大きな抵抗を受けます。この抵抗を利用し、水を進行方向と反対の方向へ押しその反作用で進みますが、効率がよくないので多くのエネルギーが消費され、そのため心臓・肺臓などの重要器官を盛んに活動させることになるので、心肺の機能の発達を促進します。

(3) 水泳は、直接皮膚に水の刺激をうけます。その結果、皮膚が鍛練されて温度の変化に対する抵抗力が、一層強くなります。

(4) プールでは、多数の人々が集まる施設であり、そこには守らなければならぬ規則やマナーが多くあり、それを守ろうとすることから社会的態度を養う機会となります。

(5) 水泳は、常に危険を伴います。そのため、水泳を行う者は、常にその危険を防止することを考え事故を未然に防ぐ行動をとらなければなりません。すなわち水泳は、生命保全の技術を習得するばかりでなく生命尊重の生きた教育としてその態度を養う機会となります。

小樽別院テレフォン法話

毎日の心のやすらぎを 3分間

電話で聞く 3分法話

TEL 27-1616

24時間、いつでもダイヤルして下さい。

別院年末年始の 行事と催し

- 除夜の会 十二月三十一日 午後三時
- 除夜の鐘 一月一日〇時
- 修正会 一月一日午前六時三十分
- 常例法座 一月九日〜十一日 午後一時三十分
- 御正忌法要 一月十四〜十六日 午後一時三十分
- ◎別院新年交礼会 一月十六日 午後四時三十分
- 一、会場 別院会館ホール

一、会費 二千円
一、メ切 一月十三日までに別院へ電話で申込下さい。
22-〇七四四

◎説教所新年交礼会

- ◎緑説教所無量講 一月九日三時
- ◎若竹説教所 彰心会二月四日(回)五時
- ◎奥沢説教所 樹心会一月一日二時
- 唯信講 一月十日十二時
- ◎新光説教所 法友会一月十日十二時
- ◎別院一月常例法座 前期常法座 九日〜十一日迄 後期常例法座 十三日〜十六日迄 本願寺布教使

お仏飯は仏さまの 食事か？

真宗では、霊供膳(ご霊膳)仏さま専用の小さな膳(ぜん)をしないという、それならばお仏飯もあげないのですか、と問いかえしてくる人がいます。

一応、理屈としてもっともなようですが、この反問には重大な意味のとり違えからくる誤解と混同があります。つまり、霊供膳とお仏飯とはあげる趣旨がまったく異なっているということです。霊供膳は仏事にあたって、亡き人にさしむけるご馳走です。とくところ、お念仏を喜び百味の飲食にとりまかれたお浄土に生まれさせていただく上からは、そういう心づかいは無用です。お浄土

では、いつもすばらしいご馳走が用意されていて、その美しさを見て、香りをかいただけで満足すると、お経にあります。

ただし、ここで注意しておかねばならないのは、お浄土をこの娑婆の延長として結構づくめの世界で、欲望のすべてを満足させてくれるところだという期待です。

お浄土とは煩惱の一切ない清浄きわまりない世界であり、百味の飲食に恵まれていても、ガツガツ食うような食欲旺盛なものもいません。しかも、仏として衆生救済のはたらきにつくのが、浄土往生なのです。したがって、いまさら亡き人に対してこちらからさしむけるものは何もなく、繰り返します。霊供膳はしません。

これに対して、お仏飯は断じて仏さまや亡き人にさし向けるものではないと断言。お莊嚴として日



- 謹賀新年
- 本願寺 小樽別院
- 輪番 藤本 龍珠
 - 副輪番 高柳 広章
 - 参勤 浅野 正法
 - 承仕 大島 光一
 - 會計 嶋本 重作
 - 書記補 江崎 夕香
 - 用務員 鷲頭 千津子
 - 役員 吉川 孝子
 - 保育協会書記 関川 澄子
 - 緑説教所 若竹説教所
 - 奥沢説教所 新光説教所
 - 小樽幼稚園 杉山 成子
 - 太田 美奈
 - 若竹保育所 青柳 順子
 - 高木 智美
 - 新光保育園 川口美由紀
 - 栗原 恭子
 - 小林 げみ
 - 佐藤 倫子
 - 佐々木敏子
 - 石栗 一枝
 - 真鍋 智子
 - 金山 和枝
 - 森合 幸子
 - 関谷 育子
 - 山西 景子
 - 那須 朋子
 - 野上 勝子

常のお給仕に欠かせないものです。お莊嚴という広い意味をもった仏教の言葉のひとつに説明するのはむづかしいですが、ここでは要するに「お飾り」です。仏さまの国「お浄土」をしのんで、うつくしくお飾りするについて、伝統的に仏飯をあげる形がたえられてきました。

むかしは、在家でも毎朝、ちいさなゆきひらでお仏飯をたいた家庭がありました。そうして、まずお内仏を莊嚴するところから、一日の生活がはじまったのです。そういう生活が困難になつたいま、ご飯をたいたとき、まっさきに仏飯器に、というのが一般的になつたようです。

●お仏飯は、仏さまやご先祖にさしむけるための「食べ物」ではありません。日に一度、お給仕に欠かせないものです。

<p>総合割烹・総合結婚式場 小樽の味・割烹の味</p> <p>和 豊 荘</p> <p>小樽市花園2丁目(公園通り) ☎(0134)23-6171</p> <p>支店 和レストラン ニュー豊楽 南樺駅下 ☎(0134)23-7561</p> <p>外商部 各種御会合に割烹の味をお届け致します。 ☎(0134)32-8757</p>	<p>生花を使って花祭壇</p> <p>札樽葬祭(株)</p> <p>TEL 34-0444 ワカマツ1-17-3</p> <p>花の店 カトリア(有)</p> <p>TEL 23-6487 奥沢1-17-3</p>	<p>NENJU 芝川</p> <p>(南) 芝川骸骨堂本店 京都・西本願寺前花屋町 電話076-371-4959・3845</p> <p>(南) 芝川骸骨堂本店 京都・西本願寺門徒会館前 電話075-371-3806</p>	<p>全葬儀 全霊協 加盟店</p> <p>小樽典礼(株)</p> <p>TEL 27-1801 稲穂3-4-1</p>
--	--	--	---

ご案内

小樽別院 ☎0134 22 0744

お晨朝 毎朝6時30分

常例布教

毎月7日-11日 巡回布教使
13日-16日 //

仏教青年会

毎月2, 3回開催 4時より

仏教婦人会

毎月27日正午 (おときあり)
お茶会もあります。

仏教壮年会 毎月6日午後7時

アソカ会 毎月1回

第3木曜日午後2時より

日曜学校

毎月最終日曜日、八時半

カフ・スカウト

毎月第2・4土曜日 2時より

ホーイ・スカウト

隊員募集中

おつとめ教室

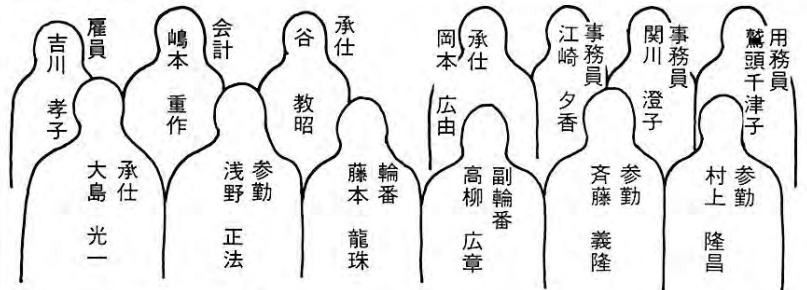
最終土曜日 3時~4時
(期間4月~11月迄)

十九日講

奥沢会館 19日正午より

各説教所の案内

- 緑説教所
無量講9日6時より
- 若竹説教所
彰心会7日7時より
- 奥沢説教所
樹心会5日7時より
唯信講10日正午より
- 新光説教所
法友会13日6時より



過去を遂うてはならぬ。
未来は待つてはならぬ。
たゞ現在の一念だけを、
強く生きねばならぬ。
(法句経)

総 代 北川 紋二
総 代 小紙 文隆
総 代 宮本 勇三
総 代 渡辺徳次郎
総 代 高橋 米蔵

謹賀新年

1990年 年回表 (平成2年度)

50	33	27	23	17	13	7	3	1
回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	周忌
昭和16年亡	昭和33年亡	昭和39年亡	昭和43年亡	昭和49年亡	昭和53年亡	昭和59年亡	昭和63年亡	平成元年亡

皆さん、御家庭の仏壇に置かれている過去帳をもう一度確かめて下さい。

明日を開く 日曜仏教講座

—親鸞聖人の生き方に学ぶ—

毎月第1・第3日曜日 午前9時30分~10時30分

元旦や 今日のいのちに 遇う不思議